

主催者あいさつ

阿部守一 長野県知事



コロナ禍の中でもSDGsの取組の加速化を

2019年1月に第1回が開催された「SDGs全国フォーラム」を、都市部の神奈川県から、農山村や中山間地域が多い長野県が引き継ぎ、今年の本県で開催いたします。

本フォーラムでは、大きく4つのプログラムをご用意しました。SDGs時代のライフスタイルと持続可能な地域づくり、SDGsを進めていく上での自治体の役割、企業経営の在り方、そして気候変動についてです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、本フォーラムはオンライン開催となりましたが、コロナ禍の中でもSDGsの取組は強く求められています。持続可能な地球をどうつくるか、地域社会からどのように取組を進めていくか。本フォーラムが、SDGsの取組を加速させるきっかけになることを願っています。

来賓あいさつ

坂本哲志さん 内閣府特命担当大臣(少子化対策、地方創生)
一億総活躍担当、まち・ひと・しごと創生担当



地方創生の推進にも欠かせないSDGsの理念

SDGsの達成と地方創生の一層の推進には、自治体、企業・団体、学校・研究機関、住民など多様な関係者の協力、連携が不可欠です。前回の「SDGs全国フォーラム」では、「SDGs日本モデル」が宣言され、自治体主導によるSDGsの旗が掲げられました。全国の自治体がSDGsを原動力とした地方創生を主導し、地域の課題解決を目指すことは、我が国のSDGs達成に向けた取組のさらなる推進につながるものです。

我が国では、2030年までのSDGs達成に向けて2020年からの10年を「行動の10年」と位置付けております。新型コロナウイルス感染症対策と活力ある地域社会との両立をはかり、地方創生をさらに推進していくためには、経済・社会・環境の三側面を不可分なものとして総合的に取り組む、SDGsの理念がますます重要になっています。本フォーラムを通じて、「SDGs日本モデル」の輪が一層広がり、活力ある地域社会の実現に向けた取組が加速していくことを、大いに期待しております。

来賓あいさつ

宇都隆史さん 外務副大臣



SDGs推進の取組を、全国さらには世界へ

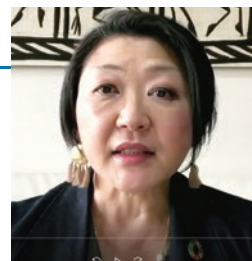
新型コロナウイルス感染症の拡大で世界は一変しました。特に脆弱な立場の人々が影響を受けており、SDGs達成に向けた取組の遅れが深刻に懸念されております。

ポストコロナの時代に向け、コロナ禍に打ち勝つだけでなく、「よりよい復興」に向けた取組が必要であり、そのためには「誰一人取り残さない」という考えのもと、SDGsを重要な指針として臨むことが大切です。

地方自治体によるSDGs達成に向けた取組は、人口減少、地域経済の縮小等の地域課題の解決にも資するものであり、SDGs達成には全国津々浦々までSDGsの考え方を行き渡らせることが必要です。日本の地方自治体におけるSDGsの取組は、海外でも高く評価されており、本フォーラム開催を契機にSDGs推進の取組が全国、さらには世界へと波及することを期待しております。

来賓あいさつ

根本 かおるさん 国連広報センター所長



SDGsをよりよい復興の羅針盤に

SDGs達成を見据えたアクションを加速するため、2020年から2030年までをSDGs達成のための「行動の10年」と決め、アクセルを踏みこんだ矢先に新型コロナウイルス感染症の拡大が起きました。

このパンデミックで、これまでの社会に潜んでいた歪みが一気に表面化し、数十年分の貧困削減努力が吹き飛び、SDGsの達成はさらに遠のいてしまっています。新型コロナウイルス感染症からの復興は、コロナ危機を生んでしまったオールドノーマルに戻るのではなく、より格差のない、よりグリーンで、より持続可能な社会へと変革した復興にならないといけません。その羅針盤になるのがSDGsです。

国連は、今取組を強化しなければ、この美しい地球と豊かな暮らしを将来世代に引き継げないという強い危機感を持っています。是非皆様にも「知る」をさらに次のアクションの加速と拡大の段階に繋げていただきたいと願っています。